

B, 回答者の地域別, 職業別, 年齢別, および性別について

(1) 地域別にみると, 旧市内が全体の59%, 新市内が19%であって, その合計は78%となり, 入館利用者の大部分が福島市民である。

なお, 県南から1名, 県外から1名の利用者があったが, これは集計の都合上安達郡に入れた。

(2) 職業別に見ると, 高校生が56%, 受験準備中が13%, 大学生が18%であって, その合計は87%となり, 入館利用者の大部分は学生生徒である。

公共図書館が一般社会人を主なる対象としていながら, 事実はおおむねのごとくである。

(3) 年齢別に見ると, したがって10代が69%, 20代が25%であり, その合計が94%となつて, 入館利用者の大部分は10代及び20代の若人によって占められている。

前述した金曜日, 土曜日, 日曜日の三日間の意見も, これらの若い世代の人々の意見だということを確認しておく必要がある。ついでに成人たちの意見をきくために, 館員が手助けをして, 館外に出ていって調査を開始した。(その結果については, 館内利用者の意見と対比して考察して見たい。)

(4) 男女別に見ると, 男が70%弱で, やはり女よりは遙かに多い。

(5) 以上のことから, 福島市に住む若い男の学生が入館して勉強している。ということが確認されるわけであるが, これだけでいつまでも自己満足してはならないものであろう。県立の公共図書館は, 県内全般にわたる一般社会人に重点を置いて, 図書館奉仕を行うとすれば, 何といっても「館外利用者の拡大」という方向をとり, 「館内で読む」よりは「借りていって館外で読む」という仕組みを強化していくことが大切である。

(6) 過去の図書館は, 「くもが, くもの巣を張って, その巣にエサが飛び込んでくるのを待っている」ようなそういう姿勢だけで図書館奉仕を実施して来たところが多かった。今日の図書館はそれだけではとても足るまい。少なくとも本館及び分館からいつでも, 一般社会人が, 個人としても, 読書グループとしても, 本を借りられるし, またその外の図書館資料についても相談に応じてもらえるようにしていくとすれば, 館員が日曜日まで館内にとおこもっているような奉仕は時代錯誤である。むしろ, 館外に出ていってお手伝えする体制をととのえることであろう。

必ずしも図書館に来るとは限らない利用者(社会人)を対象として調査した結果についての解説

A, 調査対象と担当分野及びその経過

(1) 銀行, 会社は, 東邦と中合 担当者は藤田
公務員は, 県庁, 測候所, 税務署 〃 海野
教員は, 2小, 附中, 及び福高, 福女 〃 半沢
運輸, 通信は, 国鉄, 電鉄及び電々公社 〃 藤田
商業は, 山田, 西沢, 草野, 及び小浜印刷所

〃 古川及び斎藤(善)

農業は, 農村地帯の読書会とし 〃 斎藤(光)

工業及び技術者は, 東北自動車及び蚕糸工場

〃 藤田

自由業は, 医師, 弁護士, 僧侶, 牧師及び著述業

〃 海野

主婦は, 特に婦人学級生 〃 海野

その他限定しない社会人は, 市内の名流婦人及び

図書館に関心をもつ男子 〃 海野

(2) 以上の10分野のうち, 福女が突然焼けたので, 福女からの意見はとらなかつた。

それから日産は郵送したというが, 到着していないので集計には載っていない。その他はだいたい予定通り。

(3) 以上のうち, 前半は結局「月給取りの意見」という風にまとめていい。商業といつても中小企業体の中の日給取りである。

後半は「必ずしも月給取りでない」人々の意見ということになる。月給取りは必ずしも日曜日に開館してもらわなくとも, ウークデイに時間を延長してもらえば, 何とかできるのである。

B, 館内利用者の統計と比較して

(1) 図表を見るとわかるように, 第一の問に対して「よい及びかえってよい」の合計が, 館内利用者とはちがつて, 「こまる」よりも僅かではあるが, 多い数字を示している。

つまり, 「日曜日を休館してもよい」という意見が, 館内を現に利用している者よりは, たしかに強いわけである。

(2) 第二の問に対しては, だから「それならよい及びそれならますますよい」の和が, 遙かに「それでもこまる」よりは多いのは当然である。

「開館時間を延長して日曜日は休館してもよいでしょう」という意見が, 一般社会人の間でたいへん強いわけだ。

(3) 年齢の点から見ると, 館内利用者では, 10代, 20代の青少年が圧倒的に多かつたので, だいたいにおいて館内利用者の意見はこれら10代20代の青少年の意見と見てよかつたわけだが, 今度は20代をトップにして30代40代の男女が(全体の半数)発言をしているので, いわば青年及び壮年の意見といつて差支えない。

だから, いいかえると, 青壮年は青少年より, 「開館時間を延長すれば日曜日は休館もまたやむを得ない。むしろそうしてよろしい」という支持を与えている。

(4) 地域別や性別においては, 特筆すべきものを発見しない。

C, 特に有識者たちの意見について

(1) 弁護士A

イ, 夜の勉強する人の為に開館時間をのばすがよい。

ロ, 専門書を備付けることを希望する。

雑書は何の役にも立たない。

立派な図書館も真に役立つ専門書がなければ無意味